

てがたんレポート Vol. 3 No. 2 (2006年2月：通巻23号)

- ★観察コース：鳥博スタート→駐車場前田んぼ→親水広場ミニ手賀沼→手賀大橋下漁協前→噴水広場→釣り堀わき広場（まとめ&解散）
- ★観察日時／天気：2006年2月11日（土）10:00～12:00／晴れ
- ★参加人数：23人（うち小学生1人、市外からの参加5人、初めての参加8人）
- ★観察案内&記録：
 - ・ボランティア・スタッフ（敬称略・五十音順）：伊東茂子、小野寺喜四郎、木村稔、楠本直子、小泉伸夫、近藤尚志、首藤恵美子、染谷迪夫、弘賀さと子、古川克彌）
 - ・鳥博職員：時田賢一、斉藤安行、村松和行

今回のテーマ
・冬鳥のカモと水質
・ロゼット植物の葉
・越冬昆虫

観察記録

【観察した生き物リスト】

★観察した鳥類

カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ノスリ、ハイタカ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（30種類）

（帰化鳥や家禽）コブハクチョウ、バリケン、シナガチョウ、バリケン、アヒル

★観察した植物

○花

オオイヌノフグリ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ、ノボロギク、タネツケバナ、ナズナ、カンツバキ、ハンノキ

○ロゼット

ノゲシ、オニノゲシ、オオアレチノギク、ハルジオン、ヒメジョオン、チチコグサモドキ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、ナズナ、タネツケバナ、メマツヨイグサ、ギシギシ

○その他

冬芽→ムクノキ、サクラ、カツラ、ミズキ

実→ナンテン、アオキ

★観察した昆虫類

タンボコオロギ（幼虫越冬）、ヒシバツタ、ハネナガヒシバツタ、ナナホシテントウ、スズバチの巣、イラガの繭、オオカマキリ卵のう、アブラゼミの卵、クワゴの繭、オオミノガのミノ

★体験メニュー（結果は裏へ・・・）

1.地温と気温

ホトケノザの咲く土手の南斜面にて測定

2.ロゼットの葉の数調べ

アレチマツヨイグサのロゼッタ葉の観察

3.カモのカウントと水質測定

手賀大橋下の漁協前に集まるオナガガモの数をカウント。カモの集まる場所を含む2箇所水質測定。

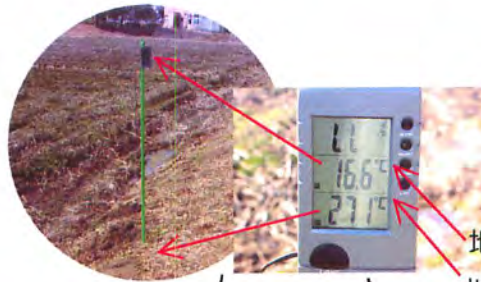
4.ハンノキの雌雄花

ハンノキの雌雄花の定点観察。

2月の観察アルバム



市民スタッフの古川さんが、ロゼット植物について、お話ししてくれました。



地上120cmの気温
地面の温度

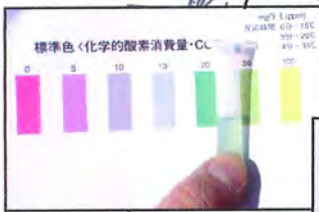
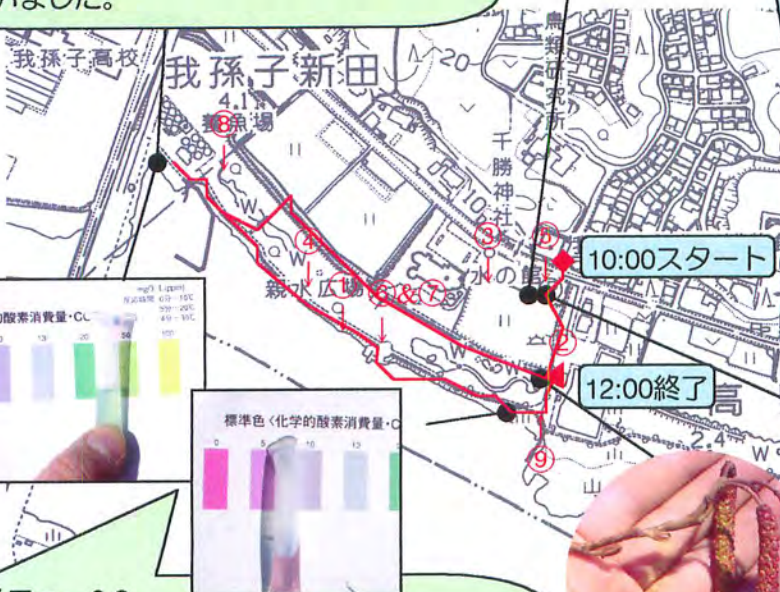
体験メニュー3-1

—オナガガモの数を数えよう—
写真判定の結果は198羽（♂106、♀92）
先月は434羽でしたので、それより減っていました。

体験メニュー1

—地温と気温をくらべてみよう—
「てがたん」の時の計測では、南斜面の地面の温度は24°C、地上120cmは14°Cでした。昼頃には、地面約27°C、地上120cm約17°Cでした（写真）。

日の光がさすと、地面近くの植物は、太陽光を吸収した土からの輻射熱と地面からの太陽光の反射熱により、地上より約10°Cもあたたかい環境を得ていました。肌寒い季節でも、ホトケノザやオオイヌノフグリは、あたたかな地面で花を咲かせていました。



体験メニュー3-2

—簡易測定で水質を比べてみよう—
餌付けにカモが集まる場所ではCOD50mg/l、付近のヨシ原ではCOD5mg/l。カモの糞や餌付けの餌により、水中の有機物が増加し、COD値が高くなった（水質が汚れた）のでしょうか。

体験メニュー4

—ハンノキの花を定点観察しよう—
ハンノキの雄花は、黄色い花粉を飛ばしていました。雌花も開花していました。昨年雌花にはまだ種子が残っているものもありました。

体験メニュー2

—ロゼット植物の葉を数えよう—
メマツヨイグサのロゼットの葉の数は39枚でした。見た目よりも多くの葉が、放射状に広がり、効率よく太陽光を浴びていることが分かりました。

観察した冬芽



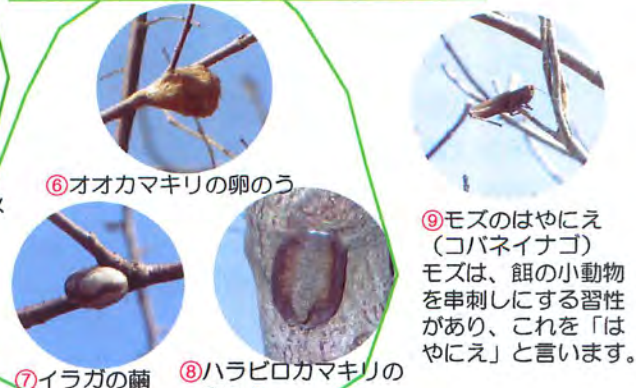
①ソメイヨシノ ②ミズキ

観察した越冬昆虫（成虫&幼虫）



③ハネナガヒシバツタ ④ヨコツナサシガメ ⑤オナホジテントウ

観察した越冬する昆虫（卵）



⑥オオカマキリの卵のう ⑦イラガの繭 ⑧ハラヒロカマキリの卵のう ⑨モズのはやにえ（コバネイナゴ）
モズは、餌の小動物を串刺しにする習性があり、これを「はやにえ」と言います。